

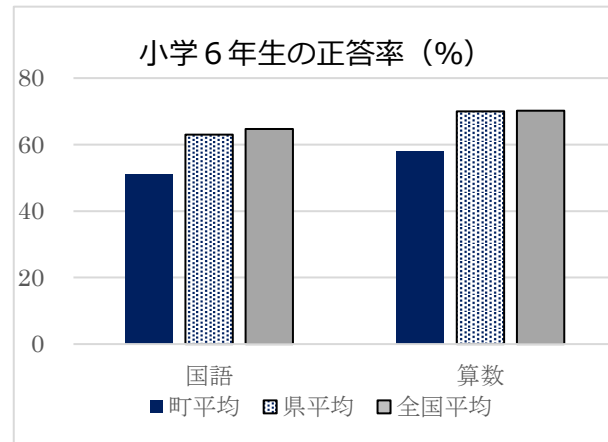
令和3年度 全国学力・学習状況調査（小学6年生、中学3年生）の結果と今後の展望

愛川町教育委員会

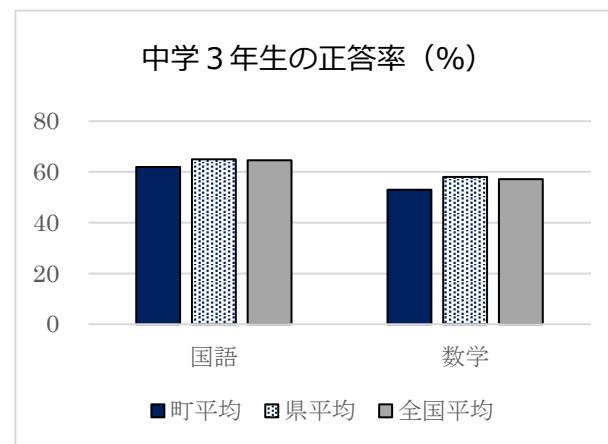
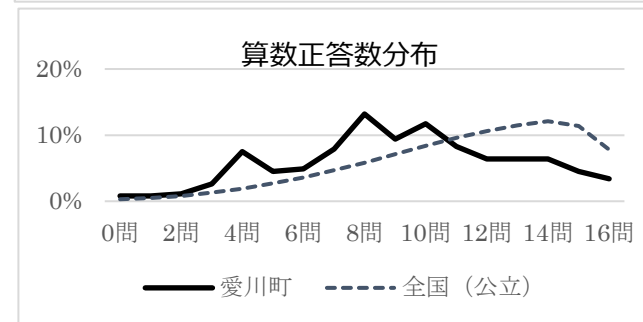
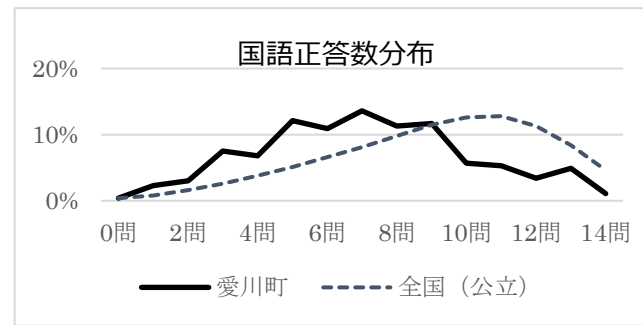
今年5月に実施された全国学力・学習状況調査について、文部科学省 国立教育政策研究所から報告書と調査結果資料が公表されました。愛川町の「教科に関する調査」と「質問紙調査」の結果から見てくる町の小学校6年生と中学校3年生の課題とその改善策について、学校の先生方とともに分析した結果と今後の展望を報告します。



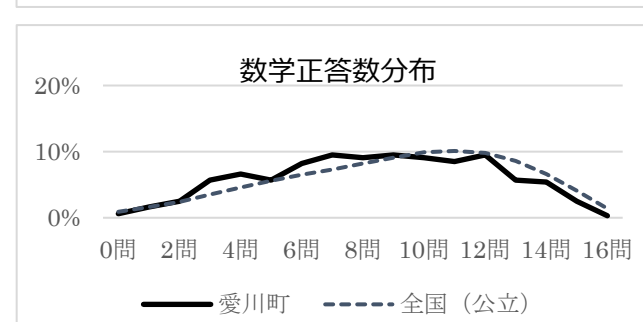
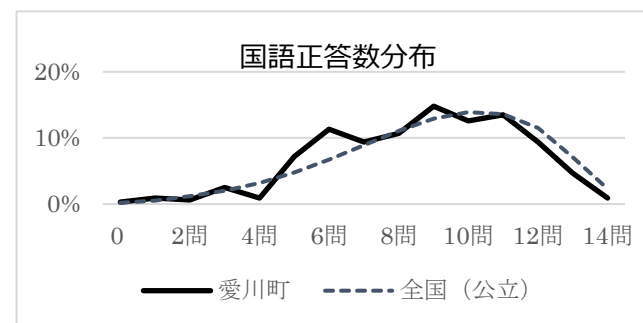
1 町内児童・生徒の教科に関する調査結果



国語・算数とも全国・県と比べて10%以上下回っています。正答数の分布を見ると、国語では7問（全国・県9問）、算数では9問（全国・県12問）が中央値となっています。



国語・数学とも全国・県と比べてやや下回っています。正答数の分布を見ると、国語では9問（全国・県9問）、数学では9問（全国・県10問）が中央値となっています。



国語の「話すこと・聞くこと」領域においては、小学6年生・中学3年生ともに県や全国の平均正答率に迫っていますが、「書くこと」については、県や全国を下回っています。また、小学6年生の「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、県や全国の平均を大きく下回っています。

小学6年生の算数では、「直角三角形の面積を求める」問題の正答率が23.4%（全国55.1%）、「二等辺三角形を組み合わせて平行四辺形の面積を求める」問題の正答率が29.4%（全国46%）など、「図形」領域に課題が見られます。中学3年生の数学については、各領域とも県や全国の平均正答率に迫っています。

2 改善策 ※各学校から挙げられた改善策の具体例

国語

- ・国語だけでなく、様々な教科において、自分の考えや授業のふり返りを自分の言葉でまとめる時間を設ける。
- ・文章を読み取り、重要な言葉や文を使って要約する活動を大切にする。
- ・学習した漢字や語彙を、文の中で使用する意識を高める。
- ・お互いの文章を読み合い、アドバイスする活動を大切にする。
- ・日頃の会話や作文において、言葉の使い方（主語と述語などの関係など）に対する意識を高める。

算数・数学

- ・図形の面積の求め方などについて、公式を暗記するだけでなく、公式を導き出すための活動や過程を大切にする。
- ・自分の考えや他の人の考えを説明する場面を多く設ける。
- ・学習した内容について、定期的に復習する機会を設ける。
- ・自分が出した解答をたしかめる習慣をつける。
- ・タブレット端末を活用し、一人ひとりに合わせた計算練習に取り組むことで計算力を高める。

3 町内児童・生徒の質問紙調査に関する結果

「普段（月～金曜日）、どれくらいの時間、テレビゲーム（スマートフォンを使ったゲームなど）をしますか」

	小6 (全国)	中3 (全国)
4時間以上	27.2% (15.5%)	25.2% (16.7%)
3時間以上4時間未満	18.9% (13.5%)	22.1% (15.6%)

「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」

	小6 (全国)	中3 (全国)
30分未満	17.7% (9.5%)	12.6% (6.4%)
全くしない	6.8% (3.5%)	6.0% (3.5%)

上記の調査結果より、愛川町の児童生徒は、テレビゲームに費やす時間が多く、勉強時間が少ないことがわかります。小学生は、学年×10分の勉強時間（6年生は60分）、中学生は、中1・70分、中2・80分、中3・90分の勉強時間を確保できるように、時間の使い方を見直してみましょう。

4 今後の展望

愛川町では、児童生徒に一人一台のタブレット端末を配付し、授業での活用に取り組んでおり、「授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」という項目に対して、「ほぼ毎日」と回答した6年生の割合が23%（全国11.2%）と全国を大きく上まっています。

今後は、今まで各校において取り組んできた授業改善に加え、ICT機器を有効活用することで、児童生徒一人ひとりの学力向上を目指します。